

大学等名	埼玉女子短期大学
テーマ名	テーマ5：人材交流による産学連携教育
取組名称	インターンシップとキャリア短大構想
取組学部等	商学科・国際コミュニケーション学科
取組担当者	キャリアサポート委員会委員長 鬼塚雅子（代表）
取組期間	平成16年度～平成17年度
Webサイト	http://www.saijo.ac.jp/

取組の概要

開学以来進めてきた「実務教育」のもと、「女性職業人の育成」に努めてきた。平成元年から続けている「資格取得講座」とともに、平成9年度から学生の希望進路に合わせた「コース制」を導入。さらに学生一人一人に強いキャリア意識と高度なコミュニケーション能力を身につけさせるため、平成11年度から「春学期3週間インターンシップ」を導入した。続いて平成12年度から「秋学期3週間インターンシップ」、平成13年度からは短期大学としては画期的な「3か月インターンシップ」を開始させた。また、学内での「キャリア意識形成教育」として、毎週多岐にわたる企業の方々を招いて「国際コミュニケーションと企業」「現代社会と企業」などの講義を行ってきた。長年積み重ねてきた実績をさらに発展させるために、本学を、インターンシップと新しく演習的要素を持つ必修科目である「コース別基礎ゼミ」と「キャリアデザイン」を中心としたキャリア形成支援教育を行う「キャリア短大」と位置づけて産学連携教育のさらなる充実を目指した。

実施の経緯・過程

全学を挙げてキャリア形成支援教育に取り組む方針に従って、専任教員全員がコース別の「基礎ゼミ」を担当した。1年次の春学期にはプロジェクトの教員が作成したオリジナルの基礎力問題集を、秋学期には市販の一般常識問題集を学習させ、週一回の「基礎ゼミ」の授業で毎回テストを課した。「基礎ゼミ」担当教員はゼミの学生と年に数回面接を行い、キャリア育成の指導に当たった。学生のキャリア意識を高めるため、1年生の春学期に必修科目「キャリアデザイン」を平成17年度から設置し、「自己理解」「社会を知る」「コミュニケーション能力を高める」のテーマのもと、キャリアサポート委員長が担当し、専門の外部教師を数名招聘した。教員および事務職員も大勢見学した。

インターンシップの内容の充実を図るため、それぞれのコースに合った受け入れ企業の開拓と学生指導をキャリアサポート委員会（教員）とキャリアサポートセンター（事務職員）とが協力して行った。平成16年3月に就職相談室をキャリアサポートセンターに名称を変えるだけでなく、部屋のリフォームを教職員が協力して行った。他大学のキャリアセンターやキャリア教育に携わる教職員及び企業や行政の人事課（あるいは総務課）と交流し、情報収集を行った。

目的に対する成果、人材養成面での達成度

学生全員が同じ問題集で年間を通して継続的に学習し、毎回小テストを受けることで、学生に学習習慣を身につけさせた。学期末の定期試験では日頃の学習の成果を確認できた。教員と学生間の個別面接により、互いに信頼感が深まった。1年生全員が「キャリアデザイン」を受講することにより、キャリア意識の大切さを強く認識させることができただけでなく、受講中の緊張感が他の授業でも継続された。これは学校を挙げてのキャリア教育への強い姿勢が学生へ伝わった結果だと思われる。

学生のインターンシップへの強い意欲と担当の教職員の努力により、参加学生数は平成16年度延べ114名から、17年度は延べ200名へと大幅に増加した。受け入れ企業も16年度延べ44社から17年度延べ79社へと伸びた。学生は自主的に参加したインターンシップの体験により大きく成長し、働く意識と仕事への理解を深め社会人としてのマナーを身につけることができた。教職員および学生の熱意は企業のインターンシップに対する理解を広めることができ、無理なく就職先を広げることができた。

自大学の教育改革への影響，他大学等への波及効果，地域社会等への波及効果

平成 17 年度に開始した「キャリアデザイン」に引き続いて，平成 18 年度から「キャリアデザイン」を秋学期に設置した。この授業では，就職活動向けの内容を中心に学生のキャリア教育を行った。この 2 教科は必修科目であることから，課題の添削においてゼミ担任の協力を得ることができ，全学挙げてのキャリア形成支援の方針が学生に伝わった。また，環境を整えて明るくなったキャリアサポートセンターには以前よりも多くの学生が頻繁に訪れるようになり，職員が前にも増して忙しくなるという嬉しい悲鳴をあげることとなった。

現代 GP を受けたことにより，インターンシップを含むキャリア教育のさきがけとして周囲の関心が高まり，他大学のキャリア教育担当者からの問い合わせや訪問が増えた。18 年 3 月には独立行政法人国立女性教育会館主催の「女子学生のキャリア教育・就活支援者セミナー」の事例発表者として，キャリアサポート委員長がセミナー講師の依頼を受けた。そこで大勢の他大学の教職員との交流を深め，本学としても多くを学ぶことができた。

学生等の評価

学生のインターンシップによる評価が高いのは，年々参加者が増えていることで証明されている。インターンシップがあるから入学したのだと言う学生もいる。ただ，すべての学生のニーズに合ったインターンシップ先を探すことは困難である。受け入れを全く拒否している企業や，制度そのものを不必要なものと否定している企業に対して，インターンシップの理解を得るのは並大抵ではない。

平成 18 年度における「キャリアデザイン」の学生の評価（17 年度は秋学期のみの実施だった）は春学期（ ）が 68 ポイント，秋学期（ ）が 75 ポイントで，全体の平均とほぼ同じであった。

インターンシップやコース制は現在でも対外的に関心度が高いことはオープンキャンパスでの高校生や保護者からの質問から判断できる。高校教員説明会では，経験談を発表した学生の成長ぶり出身校の先生が感激することがたびたびあった。徐々にではあるが，見学者も受験生も増えている。

学外からの評価

平成 17 年に受け入れ企業にインターンシップに関するアンケートを行ったところ，43 社から回答を得ることができた（回収率 71・67%）。学生に対しては概ね高評価 挨拶ができていて，素直で真面目，熱意が感じられる，礼儀が身についている，メモを取るなど だが，事前教育として基本的礼儀や一般常識の必要性が強く求められた。インターンシップ経験が採用においては考慮されるケースが半数以上で，その重要性が強く感じられ，実際に内定に結びついた学生もかなりいる。他での評判を聞いてか，それまで関係のなかった企業からインターンシップの申し込みがあったり，インターンシップの好成果によってはじめて内定者がでた企業など，嬉しい発展がここ数年間で見られる一方，企業の都合で取りやめになったり，期間の変更により断念せざるを得ないケースもあった。

取組支援期間終了後の展開

平成 18 年度から新コースとして，医療事務コンピュータコースを商学科に，プライダル・コーディネートコースを国際コミュニケーション学科に増設した。どちらも好評で，19 年度の入学者については両コースとも学科の中で最も学生数が多い。インターンシップへの関心も高く，18 年度においてはプライダル・コーディネートコースの学生は 4 分の 3 が，医療事務コンピュータコースは半数がインターンシップに参加した。新コースに加えて，インターンシップを含めた従来のコースの内容の充実，「基礎ゼミ」問題集の改訂，「キャリアデザイン」のプログラムやキャリア基本科目の内容検討と，とどまることなく絶えず学生の変化と将来を見ながら日々前進の努力を続けている。テーマである「人材交流による産学連携教育」をもう一步進めた形として，19 年度から（株）ワールドから派遣された社員によるファッション関連の授業がスタートした。さらに 20 年度の実施に向けて ANA との連携協力による包括協定を結んだ。

本件お問合せ先 キャリアサポートセンター

電話：042-986-1517 E-mail：syusyoku@saijo.ac.jp